



みどりの風

平成30年7月2日発行
校報 第554号
〔みどりの風 第97号〕
練馬区立関町北小学校

もうすぐ夏休み

校長 大野 泰弘

詩人の中原中也が、右のような夏の詩を作っています。

気象庁が統計をとり始めてから、初めて関東地方が6月中に梅雨明けしたとの報道がありました。これだけ強い陽射しがあると、子どもたちの中には、「はやく夏休みが来ないかな」等、気分は「もうすぐ夏休み」という子ども多いのではないのでしょうか。

6月30日(土)に青少年育成関地区委員会主催の「ジャガイモ掘り」が行われました。本校からは、親子合わせて約200名もの参加がありましたが、当日は、今までにない「夏の暑さ」を感じるジャガイモ掘りとなりました。

「青い空は動かない」という言葉の如く、青い空から夏の陽射しを一身に浴びながら、子どもたちは汗びっしょり、砂まみれになって、ジャガイモ掘りを楽しみました。今年は茎や葉が少なく、畝を直接掘ってジャガイモを探すという感じでしたが、子どもたちは掌に乗らないくらいの大きさのジャガイモを見付けると、とても驚いていました。

右の詩では、山辺を力強く走る蒸気機関車を、子供を優しくも力強く育てていく母親の姿になぞらえているように感じられます。いつの時代でも、母は強し、我が子への愛情は夏の暑さにも負けないものがあるのでしょう。

そんな詩に触発されて、もうすぐ夏休みなので、自宅のダンボールを整理したとき、一冊の夏休みの学習帳を見付けました。それが、下のものです。題名は「たのしいなつやすみ」。私が小学校1年生の時、初めての夏休みに課題として出された宿題でした。今から50年以上前のものですが、私の祖母と母が、小学校時代の記録として保管していたのです。



夏休みに計画的に終わられたかどうか記憶にはありませんし、「力をつける」とあるような結果が出たとも思えません。いつも「宿題はやったの?」、「宿題は午前中にしなさい!」と言われ続けた記憶だけは今でも残っています。

そんな子供時代でしたが、それでも、1学期を振り返り、夏休みを何らかのめあてをもって過ごすというのは、子供の私にとっては貴重な経験になったと思います。

当時からは時代も社会も大きく変化し、将来にわたっても変化し続けるでしょうが、親から子供への愛情、期待は不変です。今週から保護者会が始まり、通知表も20日にお渡します。ぜひ、お子様の1学期間の努力や成長をしっかり受け止め、夏休みがお子様にとって充実した日々となるよう、ご家庭でも話し合っただけると有難く存じます。夏休みを経ての、子どもたちの大きな成長を期待しております。

夏の日の歌

中原 中也

青い空は動かない、
雲片一つあるでない。
夏の真昼の静かには
タールの光も清くなる。

夏の空には何かがある、
いぢらしく思はせる何かがある、
焦げて図太い向日葵が
田舎の駅には咲いてゐる。

上手に子供を育てゆく、
母親に似て汽車の汽笛は鳴る。
山の近くを走る時。

山の近くを走りながら、
母親に似て汽車の汽笛は鳴る。
夏の真昼の暑い時。
(詩集「山羊の歌」より)

- お知らせ -

- ・ 6月23日(土)に「校舎等改築説明会」が行われました。当日配付された資料や議事録については今後学校のホームページに掲載いたします。また、来年度の開校60周年記念行事に関する、「実行委員会」の活動も始まりました。こちらも同じように掲載してまいりますので、適宜、ご確認くださいませよう、お願いいたします。